ユスティノス殉教録

作者不詳
藤遥　制作

表題、1〜6章　長官ルスティクスの尋問と、ユスティノスたちの殉教

0:1 聖なる殉教者たちの殉教。ローマで殉教したユスティノス、カリトン、カリト、エウエルピストス、ヒエラクス、パイオン、リベリアノスです。

1:1 偶像礼拝を守ろうとする不法な者たちの時代のことです。神を敬うキリスト者たちに対して、不敬虔な命令が、町でも地方でも出されていました[1]。そのため、キリスト者たちは、むなしい偶像へ注ぎの供え物をささげるよう強いられました。1:2 そこで、聖なる人々は捕らえられ、ローマの都の長官のもとへ引いて行かれました。長官の名はルスティクスといいました。彼らが裁きの座の前に引き出されたときのことです。

2:1 長官ルスティクスが、ユスティノスに言いました。「まず神々に従え。そして皇帝たちに聞き従え」2:2 ユスティノスが言いました。「わたしたちの救い主イエス・キリストが命じられたことに従うのは、責められることでも、とがめられることでもない」2:3 長官ルスティクスが言いました。「おまえは、どんな教えを修めているのか」ユスティノスが言いました。「わたしは、あらゆる教えを学ぼうと努めた。そのうえで、キリスト者の真の教えに同意したのだ。誤った考えを抱く者たちには、気に入られないとしてもだ」2:4 長官ルスティクスが言いました。「みじめなやつめ、おまえは、そういう教えが気に入っているのか」ユスティノスが言いました。「そうだ。わたしは、正しい説とともに、その教えに従っているからだ」長官ルスティクスが言いました。「その説とは、どういうものか」2:5 ユスティノスが言いました。「それは、わたしたちがキリスト者の神を敬うときの説だ。わたしたちは、この神をただひとりのかたと考えている。初めから、見えるものも見えないものも、すべての造られたものを造り、形づくられたかたである。また、わたしたちは、神の子である主イエス・キリストをも敬っている。このかたは、人類のもとに来られることが、預言者たちによって前もって告げられていた。救いを告げ知らせるかたであり、良い弟子たちの師であられる。2:6 わたしは人間にすぎない。このかたの限りない神性に比べれば、わたしの語ることはわずかだと思う。わたしは、ある預言の力を認めている。2:7 わたしが今、神の子だと言ったこのかたのことが、前もって告げられているからだ。実際、わたしは知っている。預言者たちは、このかたが人々のあいだに来臨されることを、昔から前もって語っていた」

3:1 長官ルスティクスが言いました。「おまえたちは、どこに集まるのか」ユスティノスが言いました。「それぞれが選び、できる所でだ。実際、あなたは、わたしたちがみな同じ所に集まると思っているのか。しかし、そうではない。キリスト者の神は、場所に限られるのではなく、目に見えないまま天と地を満たしておられるからだ。そして至る所で、信者たちに拝まれ、たたえられている」3:2 長官ルスティクスが言いました。「言え。おまえたちはどこに集まるのか。それとも、おまえは、どんな場所に弟子たちを集めているのか」3:3 ユスティノスが言いました。「わたしは、ティモティヌスの子マルティヌスという人の浴場の上に住んでいる。ローマ人の都に滞在するのは、これで二度目だ。そのあいだずっと、わたしは、あの人のところのほかに集まりを知らない。だれかがわたしのところへ来たいと思えば、わたしはその人に、真理の教えを分け与えてきた」3:4 ルスティクスが言いました。「それなら、つまり、おまえはキリスト者なのか」ユスティノスが言いました。「そうだ。わたしはキリスト者だ」

4:1 長官ルスティクスが、カリトンに言いました。「カリトン、続けて言え。おまえもキリスト者か」カリトンが言いました。「わたしは、神の命令によってキリスト者だ」4:2 長官ルスティクスが、カリトに言いました。「カリト、おまえは何と言うのか」カリトが言いました。「わたしは、神の賜物によってキリスト者だ」4:3 ルスティクスが、エウエルピストスに言いました。「おまえは何者か」カイザルの奴隷であるエウエルピストスは答えました。「わたしもキリスト者だ。キリストによって自由の身とされ、キリストの恵みによって、同じ望みにあずかっている」4:4 長官ルスティクスが、ヒエラクスに言いました。「おまえもキリ

スト者か」ヒエラクスが言いました。「そうだ。わたしはキリスト者だ。実際、わたしは、同じ神をあがめ、拝んでいる」4:5長官ルスティクスが言いました。「ユスティノスが、おまえたちをキリスト者にしたのか」ヒエラクスが言いました。「わたしはキリスト者だったし、これからもキリスト者だ」4:6そこに立っていたパイオンも言いました。「わたしもキリスト者だ」長官ルスティクスが言いました。「だれがおまえに教えたのか」パイオンが言いました。「わたしたちは、この良い告白を、両親から伝えられた」4:7エウエルピストスが言いました。「わたしは、ユスティノスの教えを喜んで聞いていた。しかし、キリスト者であることは、わたしも両親から伝えられた」長官ルスティクスが言いました。「おまえの両親はどこにいるのか」エウエルピストスが言いました。「カパドキヤにいる」4:8ルスティクスが、ヒエラクスに言いました。「おまえの両親はどこにいるのか」ヒエラクスは答えて言いました。「わたしたちのまことの父はキリストであり、母は、このかたへの信仰だ。わたしの地上の両親は死んだ。わたしは、フルギヤのイコニオムから引き離されて、ここに来たのだ」4:9長官ルスティクスが、リベリアノスに言いました。「おまえは何と言うのか。キリスト者か。おまえも敬わないのか」リベリアノスが言いました。「わたしもキリスト者だ。実際、わたしは、唯一の、まことの神を敬い、拝んでいる」

5:1長官がユスティノスに言いました。「聞け。学者と言われ、真の教えを知っていると思っている者よ。もしおまえがむちで打たれ、首をはねられたら、天に昇ると確信しているのか」5:2ユスティノスが言いました。「これを耐え忍ぶなら、神の賜物を受けると望んでいる。実際、わたしは知っている。このように生きた者すべてには、全世界が全うされるときまで[2]、神の恵みの賜物がとどまっているのだ」5:3長官ルスティクスが言いました。「では、おまえは、天に昇って何かの報いを受けると、思い込んでいるのか」ユスティノスが言いました。「思い込んでいるのではない。知っていて、確信しているのだ」5:4長官ルスティクスが言いました。「では、目の前の、差し迫った事柄に移ろう。だから、おまえたちはみな、集まって心を合わせ、神々にいけにえをささげよ」ユスティノスが言いました。「まともな考えを持つ者はだれも、敬虔から不敬虔へ落ちたりしない」5:5長官ルスティクスが言いました。「従わないなら、容赦なく刑罰を受けることになる」5:6ユスティノスが言いました。「わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストのために刑罰を受けて、救われることを祈り願っている。それが、わたしたちの支配者であり救い主であられるかたの裁きの座の前で、わたしたちの救いとなり、確信となるからだ。その裁きの座は、ここよりも恐ろしく、全世界に及ぶ」5:7ほかの殉教者たちも、同じように言いました。「好きなようにするがいい。実際、わたしたちはキリスト者であって、偶像にいけにえをささげはしない」5:8長官ルスティクスは、判決を言い渡しました。「神々にいけにえをささげることも、皇帝の命令に従うことも望まなかった者たちは、むち打ちのうえ引き立てよ。法の定めに従って、死刑に処する」

6:1聖なる殉教者たちは、神をたたえながら、いつもの場所へ出て行き、首をはねられました。こうして彼らは、救い主を告白して、その殉教を全うしました。6:2信者たちのうちのある人々が、ひそかに彼らのからだを引き取り、ふさわしい場所に納めました。わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、その人々とともに働いたのです。このかたに、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

訳注

1　一章と六章は、裁判の記録に後から添えられた部分とみられている。

2　ほかの古い写本は『全世界が火で焼かれるときまで』と読む。

ユスティノス殉教録

2026年11月23日版

著者　作者不詳

制作　藤遥

発行　christian-classics-jp

公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/martyrdom-of-justin/

原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/martyrdom-of-justin

全文を、ギリシア語原文（Μαρτυρίον τῶν ἁγιῶν μαρτυρῶν Ἰουστίνου）からAIを使って翻訳しました。

訳文はCC0 1.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。